

Cisco Unified Communications Manager のオーバーフロー脆弱性

Critical	アドバイザーID : cisco-sa-20070711-cucm	CVE-2006-5278
	初公開日 : 2007-07-11 16:00	5278
	バージョン 1.0 : Final	CVE-2006-5277
	CVSSスコア : 10.0	5277
	回避策 : Yes	
	Cisco バグ ID :	

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

Cisco Unified Communications Manager (CUCM) (以前の CallManager) には 2 つのオーバーフロー脆弱性があり、認証されていないリモート ユーザはこれを悪用して、Denial of service (DoS; サービス拒否) 状態を発生させたり、任意のコードを実行したりできます。

これらの脆弱性のうち 1 つには回避策があります。

Cisco では、該当するお客様用に、これらの脆弱性に対応する無償ソフトウェアを提供しております。

このアドバイザーは [711-cucm](#) で掲示されます。

該当製品

修正済みソフトウェア

脆弱性を含む製品は次のとおりです。

- 3.3(5)SR3 よりも前の Cisco Unified CallManager 3.3 バージョン
- 4.1(3)SR5 よりも前の Cisco Unified CallManager 4.1 バージョン
- 4.2(3)SR2 よりも前の Cisco Unified CallManager 4.2 バージョン
- 4.3(1)SR1 よりも前の Cisco Unified Communications Manager 4.3 バージョン
- 5.1(2) よりも前の Cisco Unified CallManager 5.0 および Communications Manager 5.1 バージョン

CUCM バージョン 3.x および 4.x を実行しているシステムの管理者は、CUCM Administration インターフェイスで **Help > About Cisco Unified CallManager** の順に移動して **Details** ボタンをクリックすることにより、ソフトウェアのバージョンを確認できます。

CUCM バージョン 5.0 を実行しているシステムでは、CUCM Administration インターフェイスのメイン ページを見ることで、ソフトウェアのバージョンを確認できます。ソフトウェアのバージョンは、Command Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) で **show version active** コマンドを実行して確認することもできます。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

Cisco Unified Communications Manager バージョン 6.0 および Cisco CallManager Express は、これらの脆弱性には該当しません。他のシスコ製品においてこのアドバイザリの影響を受けるものは、現在確認されていません。

改訂履歴

リビジョン 1.0	2007 年 6 月 11 日	初回公開リリース
-----------	-----------------------	----------

利用規約

本アドバイザリは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザリの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザリの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。